

第22回高校生国際美術展 愛知県知事賞

受賞

一宮起工科高校 デザイン科

松岡里奈 (木曾川中出身)

光る技で2年連続受賞

一宮市の一宮起工科高デザイン科三年の松岡里奈さん(17)が、独自の技法で自画像作品を制作し、「第十二回高校生国際美術展」美術の部で、愛知県知事賞を受賞した。昨年も同展で文部科学大臣賞に選ばれており、受賞は二年連続。

(下條大樹)

一宮起工科高・松岡さん



知事賞を受賞した松岡さんと作品「17歳の自画像」 一宮市小信中島の一宮起工科高で

国際美術展 CDやアルミホイル駆使し自画像

同展はNPO法人世界芸術文化振興協会(東京)が主催し、高校生の才能を見いだすことなどを目的に毎年開催。今年の美術の部には全国から千三百九十七点の応募があった。

松岡さんの作品「17歳の自画像」は複数の素材を組み合わせて制作。コロナ禍での不安と未来への希望が入り交じる、複雑な心境を表現した。

横顔の一部は、CDやDVDを切り、ステンドグラスのように貼った。瞳には金箔。髪や頬はシワをつけたアルミホイルに青系の油絵の具を塗り、うっすらと輝く。背景の空と海は、オーロラフィルムや車用塗料、ネイル、レジンを用いて、深みを出した。左端に放射状に切り込みを入れ、希望を象徴する太陽を表した。

三月から四カ月かけて制作。昨年より下位の賞になったことを「悔しかった」としつつ、作品の出来栄には「光るもの、反射するものをどう生かすか考えた」と満足げ。春から美術大学進学を目指しており、「他の学生と切磋琢磨し、自分の可能性を広げていきたい」と意気込んだ。